



613-001969 Rev.A 141208

CentreCOM GS908S-TP V2 取扱説明書



ギガビットイーサネット・スマート・タップスイッチ

CentreCOM® *GS908S-TP V2*



取扱説明書

CentreCOM®GS908S-TP V2

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用を意図した設計および製造はされておられません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために

必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(弊社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-120V で動作します。



電圧注意

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。

指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいないに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る
使用

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉
（化学どうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

このたびは、CentreCOM GS908S-TP V2をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートを8ポート装備したギガビットイーサネット・スマート・タップスイッチです。

Webブラウザを利用したグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) をサポートし、Webブラウザから本製品にアクセスして、設定の変更や参照を行うことができます。

さらに、本体上面のフラッシュモード切替スイッチ、WEB GUI 切替スイッチにより、簡単にフラッシュモードのON/OFFや本体宛IP通信のON/OFFの設定ができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良（機能拡張、不具合修正など）のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手してください。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の2部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。取扱説明書はお読みになったあとも製品保証書とともに大切に保管してください。

○ **取扱説明書 (本書)**

本製品の設置と接続、WEB GUI 設定手順、機能の詳細設定、および導入例など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

本書はファームウェアバージョン「1.0.0」をもとに記述されています。

○ **リリースノート (弊社ホームページに掲載)**





ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書の内容を補足する最新の情報が記載されています。リリースノートは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

表記について

アイコン

本書で使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM GS908S-TP V2 を意味します。場合によっては、GS908S-TP V2 のようにCentreCOMを省略して記載しています。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	6
表記について	7
目次	8
1 お使いになる前に	11
1.1 梱包内容	12
1.2 特長	13
特長	13
オプション(別売)	13
サポート機能	14
1.3 各部の名称と働き	15
上面	15
下面	16
背面	17
1.4 LED表示	18
Power LED	18
ポートLED	18
2 設置と接続	19
2.1 設置方法を確認する	20
設置するときの注意	20
2.2 マグネットによる取り付け	21
設置方向	21
2.3 オプションを利用して設置する	22
壁設置ブラケットを使用する場合	22
2.4 ネットワーク機器の接続	23
ケーブル	23
接続のしかた	23
2.5 電源ケーブルの接続	24

3 設定の準備 25

3.1 操作の流れ.....	26
3.2 設定の準備.....	27
設定用コンピュータの設定.....	27
3.3 設定の開始(ログイン).....	31
ログインする.....	31
Web 設定画面の構成.....	32
3.4 設定の反映、保存、終了(ログアウト).....	33
設定の反映と保存.....	33
本製品上面のティップスイッチとWEB GUI 設定項目のデフォルト設定について.....	33
ログアウト.....	33

4 設定と操作 35

4.1 概要.....	36
Configuration、Maintenanceメニュー.....	36
4.2 システムの設定.....	37
スイッチ情報の確認.....	39
システム名の設定.....	39
ユーザー名の設定.....	39
パスワードの設定.....	40
タイムアウト時間の設定.....	40
IPホストの設定.....	41
ICMPメッセージの設定.....	42
BPDU透過、EAP透過機能の設定.....	42
Force MDI の設定.....	42
フラッシングモード切替スイッチの設定.....	43
リンクリレーの設定.....	43
EEE モードの設定.....	44
エコLED機能の設定.....	44
WEB GUI 切替スイッチの設定.....	44
4.3 ポートの設定.....	45
ポート設定メニュー.....	45
ポートの設定.....	46
ポートの通信状態の確認.....	47

目次

4.4	バーチャルLANの設定	48
	ポートVLAN/タグVLANの設定	49
	セレクトダブルポート・マルチプルVLANの設定	55
4.5	ポートミラーリングの設定	59
	ポートミラーリング	59
4.6	パケットストームプロテクションの設定	61
	パケットストームプロテクション	61
4.7	ループガードの設定	62
	ループガード	62
4.8	再起動する	64
4.9	工場出荷時の設定に戻す	65
4.10	ファームウェアのアップデート	66
4.11	設定ファイルのアップロード・ダウンロード	68
	設定ファイルのアップロード	69
	設定ファイルのダウンロード	70
4.12	ログアウト	71
	ログアウト	71
5	付録	73
5.1	困ったときに	74
	システム情報を確認する	74
	LED表示を確認する	74
	トラブル例	74
5.2	仕様	77
	コネクタ・ケーブル仕様	77
	本製品の仕様	79
5.3	デフォルト設定	80
5.4	保証とユーザーサポート	81
	保証、修理について	81
	ユーザーサポート	81
	サポートに必要な情報	82

1

お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

- CentreCOM GS908S-TP V2 1台
- 取扱説明書(本書) 1冊
- 製品仕様書(英文) 1枚
 ※日本語マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。
- ソフトウェア使用権許諾契約書 1枚
- 製品保証書 1枚
- シリアル番号シール 2枚

1.2 特長

本製品の特長とオプション（別売）製品を紹介します。

特長

- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 8 ポート装備
- 小型で軽量の筐体による機能的なデザイン
- 背面のマグネットによりスチール製の壁面への設置が可能
- 省エネ機能をサポート
 - ・ 使用していないポートの消費電力を自動的に抑える省電力モード（常時有効）
 - ・ UTP ケーブル長を自動判別し、消費電力を抑えるケーブル長省電力機能（常時有効）
 - ・ ポートの LED を消灯させるエコ LED 機能の設定が可能
 - ・ ポート 1 ～ 7 とポート 8 のリンクダウン・給電を連動して切り替えるリンクリレー機能の設定が可能
 - ・ ポートの非通信時の状態を制御し、消費電力を抑える省電力イーサネット（Energy Efficient Ethernet）（常時有効）
- ディップスイッチにより簡単にフラッシュモードの切り替えが可能
- ディップスイッチにより簡単に本体宛 IP 通信の ON/OFF が可能
- 最大 8K の MAC アドレスを登録可能
- Force MDI 機能（ポート 1 ～ 7 を MDI-X、ポート 8 を MDI に固定が可能）の設定が可能

オプション（別売）

- 壁設置ブラケットで壁面への取り付けが可能
AT-BRKT-J21

1.2 特長

サポート機能

本製品の主な機能は次のとおりです。サポートする機能はファームウェアのバージョンに依存しますので、詳細については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

マネージメント

- WEB GUI
- Webによるファームウェアのアップロード、設定ファイルのダウンロード・アップロードが可能
- 省エネ機能

スイッチング

- MDI/MDI-X自動認識(固定設定も可能)
- オートネゴシエーション機能(固定設定も可能)
- フローコントロール
Half Duplex時: バックプレッシャー
Full Duplex時: IEEE 802.3x PAUSE
- EAP透過/BPDU透過
- ループガード(受信レート検出・MACアドレススラッシングプロテクション)
- パケットストームプロテクション
- ポートミラーリング
- イングレスフィルタリング(常時有効)
- 9600ByteのJumboフレーム対応(1000Mbps時のみ)
(10Mbps/100Mbps時は、最大1536Byte)

バーチャルLAN

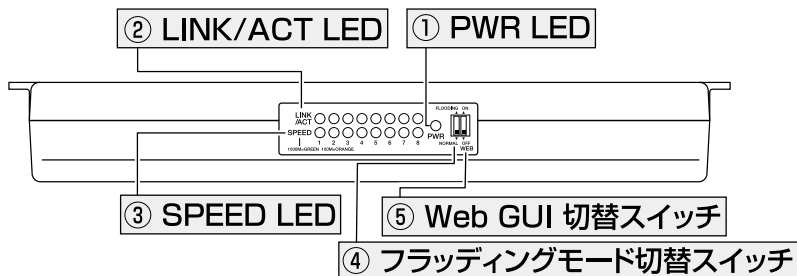
- ポートVLAN
- IEEE 802.1QタグVLAN
- マルチプルVLAN(セレクトラブルポート・マルチプルVLAN)

フォワーディングデータベース

- 最大8KのMACアドレス登録


1.3 各部の名称と働き

上面




① PWR LED (緑)

本製品の電源供給状態を表すLEDです。

 18 ページ「LED 表示」


② LINK/ACT LED (緑)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表すLEDです。

 18 ページ「LED 表示」

③ SPEED LED

接続先の機器との接続状態を表示するLEDです。

 18 ページ「LED 表示」

④ フラッディングモード切替スイッチ

フラッディングモード有効 (FLOODING) / 無効 (NORMAL) を切り替えるためのスイッチです。デフォルトはNORMAL (下) 側です。

フラッディングモードに設定すると、接続されたすべてのポート (ノード) へパケットが転送されます。また、その際にフローコントロール機能は無効に設定されます。



注意

- ・フラッディングモードの設定は即時反映されます。リンク状態のポートは、一度リンクが切断されます。
- ・本製品の Web 設定画面より、フラッディングモード切替スイッチの使用可能 / 使用不可の設定ができます。使用不可に設定するとフラッディングモード切替スイッチの NORMAL / FLOODING にかかわらず、フラッディングモードは無効になります。

1.3 各部の名称と働き

⑤ WEB GUI 切替スイッチ

本体宛のIP通信の有効/無効を切り替えるためのスイッチです。デフォルトは無効（下側）です。

- **ON（スイッチが上側の状態）**
本体宛のIP通信が有効になります。Web ブラウザーから本製品にアクセスし、設定の変更が行えます。
- **OFF（スイッチが下側の状態）**
本体宛のIP通信が無効になります。

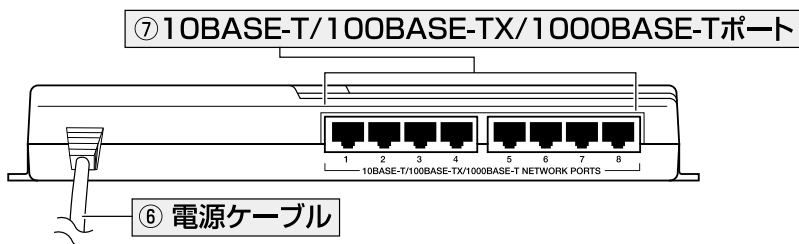


・本製品の Web 設定画面より、WEB GUI 切替スイッチの有効 / 無効が設定できません。無効に設定すると WEB GUI 切替スイッチの ON/OFF にかかわらず、Web 設定画面へアクセス接続できます。

・WEB GUI 切替スイッチを切り替えるとすぐに設定が反映されます。

 44 ページ「WEB GUI 切替スイッチの設定」

下面



⑥ 電源ケーブル（1.8m）

電源コンセントに接続するためのケーブルです。

 24 ページ「電源ケーブルの接続」

⑦ 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

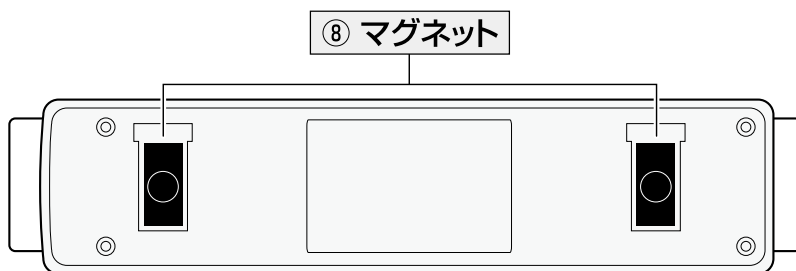
UTPケーブルは、10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5以上を使用します。

通信モードがオートネゴシエーションかつMDI/MDI-X自動認識が有効な場合、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用できます。

本製品のWeb設定画面のSystem Configurationにて、「Force MDI Enabled」にチェックを入れるとForce MDIが有効になり、1～7番ポートがMDI-X、8番ポートがMDIで固定されます(デフォルトはチェックが入っていません)。


 23 ページ「ネットワーク機器の接続」

背面



⑧ マグネット

本製品をスチール製の壁面に設置するためのマグネットです。

 21 ページ「マグネットによる取り付け」

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明します。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- 平らなところへの水平方向の設置
本製品をデスク面などの平らなところへ設置できます。
- マグネットによるスチール製の壁面への設置

オプション(別売)を利用することにより、次の方法による設置ができます。

- 壁設置ブラケットによる壁面への設置



・弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災、故障の原因となります。

・水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。



・本製品を平らなところへ設置する場合は、必ず背面（マグネットのある面）を下にして設置してください。

・製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめの前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 底部を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 本製品の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子には触らないでください。（静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因となります。）

2.2 マグネットによる取り付け

本製品は、背面のマグネットを使用することで、スチール製の壁面に取り付けることができます。



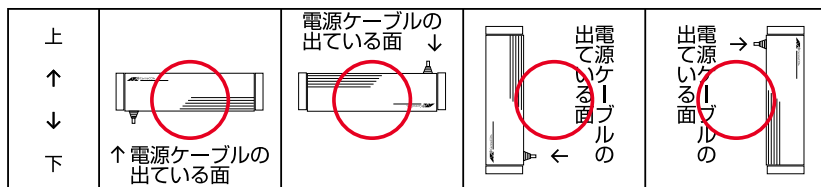
- ・取り付けの際は機器およびケーブルの重みにより機器が落下しないように確実に取り付け、設置してください。ケガ、故障の原因になることがあります。
- ・機器をマグネットで高所に取り付けないでください。落下によるケガ、機器破損の恐れがあります。
- ・振動、衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下によるケガ、故障の原因となることがあります。
- ・OA デスク等にマグネットで機器を取り付けたまま、機器をずらさないでください。被着面の塗装などに傷がつく恐れがあります。
- ・マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により記録内容が消去される恐れがあります。
- ・機器をマグネットでパソコンおよびディスプレイなどの電子機器には取り付けないでください。



- ・設置面の状態によってはマグネットの十分な強度を得られないことがあります。
- ・マグネットの設置面によっては、内部の部品が磁束の影響を受けることで通信に不具合が起る可能性があります。その際は、マグネット設置面を変更するなどの対応を行ってください。

設置方向

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

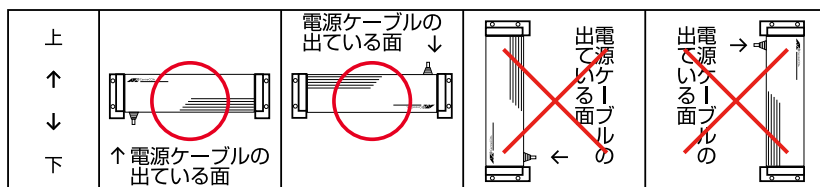
2.3 オプションを利用して設置する

本製品は以下のオプション（別売）を使用して壁面に取り付けることができます。取り付け方法については、オプションに付属の取扱説明書を参照してください。

- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J21」を使用して壁面に取り付ける。

壁設置ブラケットを使用する場合

必ず下図の○の方向に設置してください。



- ・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

2.4 ネットワーク機器の接続

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

UTPケーブルのタイプ

通信モードがオートネゴシエーションかつMDI/MDI-X自動認識が有効な場合、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用できます。

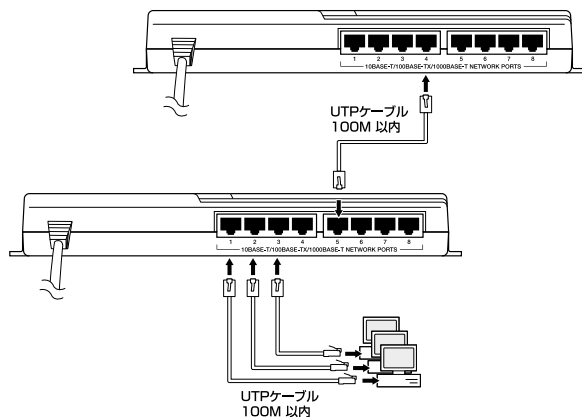
通信速度を10Mbps/100Mbpsに固定設定した場合、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要があります。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

UTPケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続するケーブルの長さは100m以内になしてください。

接続のしかた

- 1 本製品の10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TポートにUTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 2 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタを接続先機器の10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートに差し込みます。



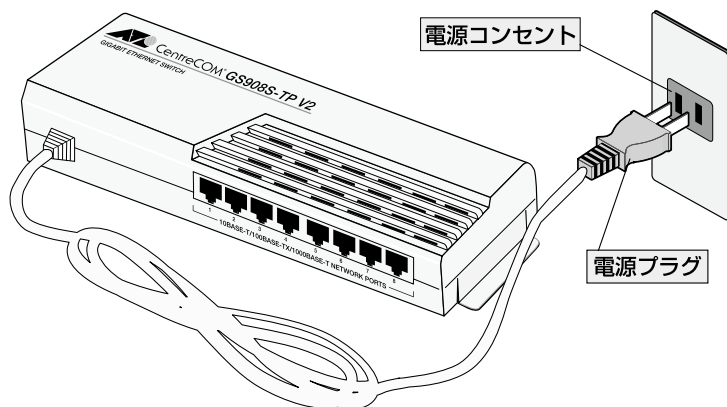
2.5 電源ケーブルの接続

本製品は、電源プラグを電源コンセントに接続することで自動的に電源が入ります。



本製品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

- 1 電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 2 電源が入ると、本体上面のPWR LED(緑)が点灯します。
- 3 電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

3

設定の準備


この章では、本製品の設定および接続するための手順について説明します。

3.1 操作の流れ

本製品の接続から設定までの流れは次のとおりです。

STEP 1 ネットワーク機器を接続する

本製品と設定用コンピューターをUTPケーブルで接続します。

 23ページ「ネットワーク機器の接続」



STEP 2 設定用のコンピューターを設定する

設定用のコンピューターを本製品のインターフェース仕様にあわせて設定します。

 27ページ「設定用のコンピューターの設定」



STEP 3 ログインする


「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
初期ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名およびパスワードは大文字・小文字を区別して入力します。

 31ページ「ログインする」



STEP 4 設定を始める


本製品の設定を行います。

 37ページ「システムの設定」



STEP 5 ログアウトする

本製品への設定が終了したらログアウトします。

 71ページ「ログアウト」

3.2 設定の準備

設定用コンピューターの設定

設定環境

本製品の設定はWeb ブラウザーから行います。下記のOS、Web ブラウザーがインストールされたコンピューターを用意してください。

- ・Windows 7、8、8.1
- ・Microsoft Internet Explorer Version 8 ～ 11
- ・JavaScript を使用

本製品ご購入時のIP アドレスは次のとおりです。

- ・192.168.1.1

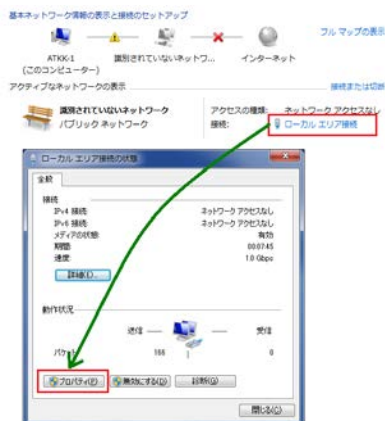
設定用コンピューターのIPアドレスを変更

設定用コンピューターのIP アドレスを、本製品のIP アドレスの設定に合わせて変更します。ここでは、Windows 7、Internet Explorer 11 を使用する場合を例として説明します。

- 1 Windowsのスタートメニューから「コントロールパネル」を選択し、「ネットワークと共有センター」アイコンをクリックします。

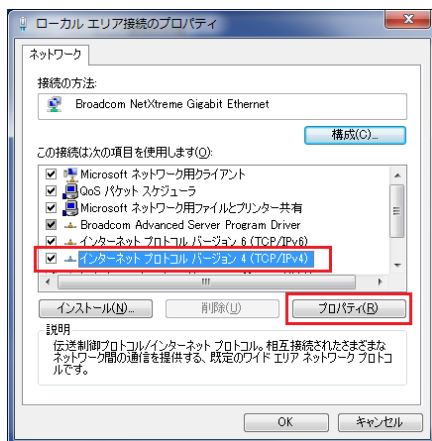


- 2 「ローカルエリア接続」をクリックすると「ローカル エリア接続の状態」ポップアップウィンドウが開きますので、ウィンドウ内の動作状況から「プロパティ」をクリックします。



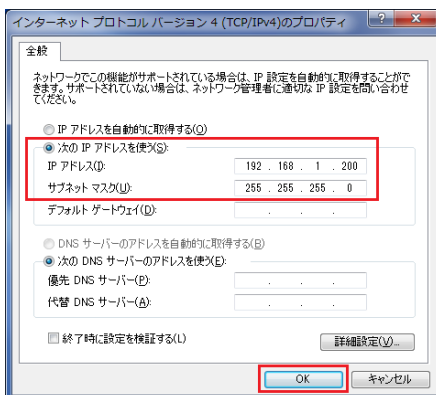
3.2 設定の準備

- 3 「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。



- 4 「IP アドレス」と「サブネットマスク」に値を入力し、「OK」をクリックします。「IP アドレス」には「192.168.1.xxx」(xxx は、1 を除く 2 から 254 までの値)を、「サブネットマスク」には「255.255.255.0」を設定します。

変更前の IP アドレスは、メモをとるなどして記録し、本製品の設定後に、もとの値に戻せるようにしてください。



- 5 「OK」をクリックし、「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」ウィンドウを閉じ、さらに「閉じる」をクリックし「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウと「ローカル エリア接続の状態」ウィンドウを閉じます。

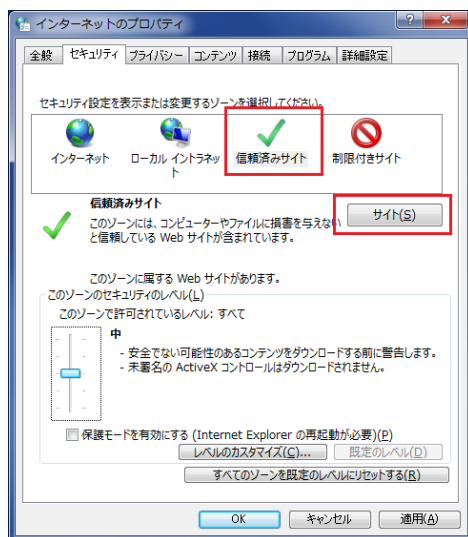
Java Scriptを有効にする

設定用コンピューターでJava Scriptを無効に設定している場合、Java Scriptを有効にする必要があります。以下に本製品へのアクセスに対してのみ、JavaScriptを有効にする手順を説明します。ここでは、Windows 7、Internet Explorer 11 を使用する場合を例として説明します。

- 1 Windowsのスタートメニューから「コントロールパネル」を開き、「インターネットオプション」アイコンをクリックします。

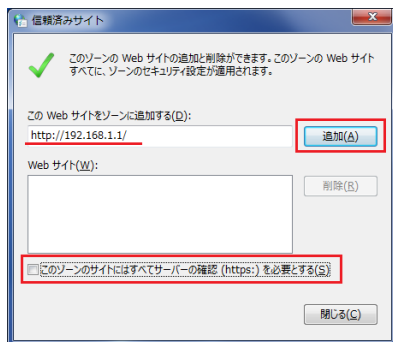


- 2 「セキュリティ」タブをクリックします。「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」をクリックします。

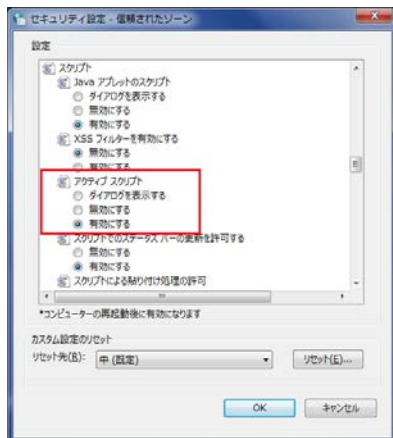


3.2 設定の準備

- 3 「http://192.168.1.1/」を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする」のチェックを外してから、「追加」をクリックします。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1/」が表示されたら、「OK」をクリックします。「信頼済みサイト」ウィンドウが閉じます。



- 4 「インターネットオプション」ウィンドウの「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」をクリックし、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。



- 5 「インターネットオプション」ウィンドウの「OK」をクリックします。「インターネットオプション」ウィンドウが閉じます。
- 6 Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

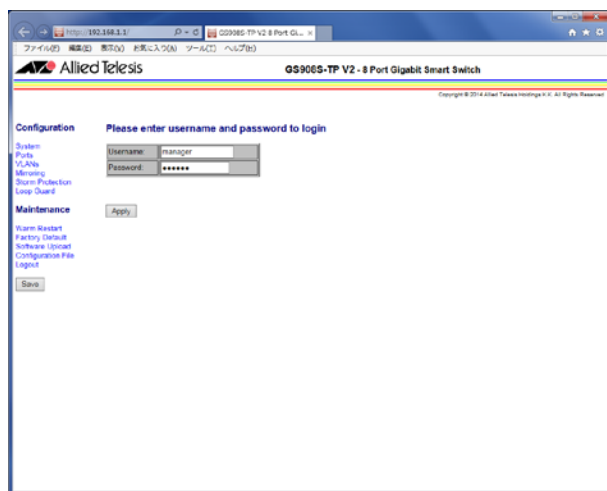
3.3 設定の開始（ログイン）

ログインする

本製品の起動およびWeb ブラウザーへログインする手順は、次のとおりです。

- 1 本製品の電源を入れます。
システムが起動し、PWR LED（緑）が点灯します。
- 2 WEB GUI 切替スイッチを「ON」（上）側に設定します。
- 3 Web ブラウザーのアドレス欄に本製品のIP「192.168.1.1」を入力し、「Enter」キーを押下します。
- 4 ログイン画面が表示されます。

「User Name」に「manager」、「Password」に「friend」と入力して、「Apply」をクリックします。入力する文字列は大文字と小文字の区別をしてください。入力したパスワードは「●」で表示されます。



- 5 ログインに成功するとWeb 設定画面が表示されます。Web 設定画面で本製品のサポートする機能の設定や参照を行います。



ヒント

ログインセッションのタイムアウト時間は初期設定で 300 秒に設定されているため、ログイン後、Web ブラウザーによる通信が行われない状態が 300 秒（5 分）継続すると自動的にログアウトします。タイムアウト時間は、「System Configuration」の「Console Timeout(sec)」で変更できます。



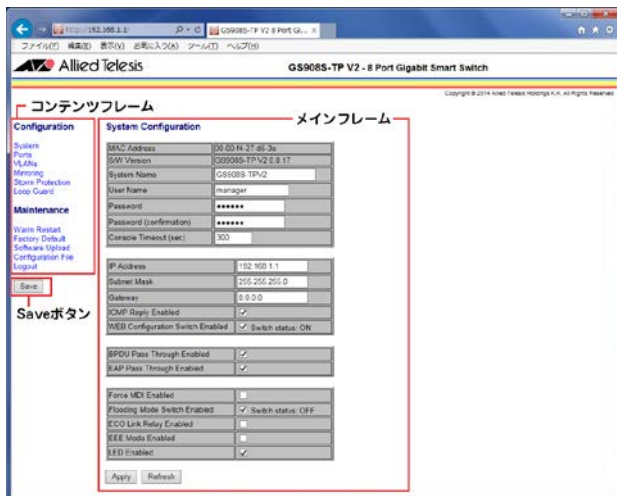
注意

本製品は、1 ユーザー（1IP）のみ WEB GUI へアクセスできます。同時に複数のユーザーがログインすることはできません。

3.3 設定の開始（ログイン）

Web 設定画面の構成

Web 設定画面は、コンテンツフレームとメインフレームに分かれています。また、メインフレーム上で機能の選択が可能な場合には、プルダウンメニューから選択するか、チェックボックスにチェックを入れます。



コンテンツフレーム

本製品の設定メニューです。

設定メニューは、用途別に「Configuration」と「Maintenance」メニューに分けられています。クリックするとメインフレームに設定情報などが表示されます。

メインフレーム

各機能の設定の変更や参照を行う画面です。

コンテンツフレームのメニューをクリックすると表示されます。

Save ボタン

設定をフラッシュメモリーに保存します。「Save」が赤色の場合はフラッシュメモリーに変更した設定が反映されていないことを意味します。各設定画面の「Apply」をクリックすると設定は即時反映されますが、次回起動時に変更した設定で起動するには、「Save」をクリックし設定をフラッシュメモリーに保存する必要があります。

3.4 設定の反映、保存、終了（ログアウト）

設定の反映と保存

ページに「Apply」が表示されている場合、ページを移動する前に、必ず「Apply」をクリックしてください。「Apply」をクリックすると、現在の設定画面における設定内容が反映されます。

変更した設定内容をフラッシュメモリーに保存するには「Save」をクリックします。何らかの設定変更を行うと「Save」は赤色に変更され、赤色の「Save」をクリックするとフラッシュメモリーに変更が保存され、「Save」はデフォルト色にもどります。

本製品上面のディップスイッチと WEB GUI 設定項目のデフォルト設定について

本製品上面のディップスイッチと WEB GUI 設定項目 (WEB Configuration Switch Enabled、Flooding Mode Switch Enabled) の関係について説明します。

WEB GUI 切替スイッチ

WEB GUI 上の設定	ディップスイッチの設定	状態
有効 (デフォルト)	OFF (無効) (デフォルト)	本体宛 IP 通信が無効です。Web 設定画面へアクセスできません。
	ON (有効)	本体宛 IP 通信が有効です。Web 設定画面へアクセスできます。
無効	OFF (無効) (デフォルト)	ディップスイッチが無効化します。ディップスイッチの設定 (ON/OFF) にかかわらず、本体宛 IP 通信が有効になり、Web 設定画面へアクセスできます。
	ON (有効)	

フラッディングモード切替スイッチ

WEB GUI 上の設定	ディップスイッチの設定	状態
使用可能 (デフォルト)	NORMAL (無効) (デフォルト)	フラッディングモードが無効です。フラッディングは行われません。
	FLOODING (有効)	フラッディングモードが有効です。フラッディングが行われます。
使用不可	NORMAL (無効) (デフォルト)	ディップスイッチが無効化します。ディップスイッチの NORMAL/FLOODING にかかわらず、フラッディングモードは無効になります。
	FLOODING (有効)	

ログアウト

Web 設定画面からログアウトするには、コンテンツフレームの「Logout」をクリックします。ログアウトに成功するとログイン画面が表示されます。

4

設定と操作

この章では、本製品を運用・管理するための操作方法について説明しています。

4.1 概要

Configuration、Maintenanceメニュー

本章では、本製品を運用管理するための操作として、コンテンツフレームの「Configuration」メニューおよび「Maintenance」メニューの説明をします。

Configurationメニュー

4.2 システムの設定

System

4.3 ポートの設定

Ports

4.4 バーチャルLANの設定

VLANs

4.5 ポートミラーリングの設定

Mirroring

4.6 パケットストームプロテクションの設定

Storm Protection

4.7 ループガードの設定

Loop Guard

Maintenanceメニュー

4.8 再起動する

Warm Restart

4.9 工場出荷時の設定に戻す

Factory Default

4.10 ファームウェアのアップデート

Software Upload

4.11 設定ファイルのアップロード・ダウンロード

Configuration File

4.12 ログアウト

Logout

Save ボタン

Maintenanceメニューの下に、「Save」があります。何らかの設定変更を行うと「Save」は赤色に変更し、赤色の「Save」をクリックするとフラッシュメモリーに変更が保存され、「Save」はデフォルト色にもどります。次回起動時に変更した設定で起動する場合には、「Save」をクリックしてください。

4.2 システムの設定

本製品にログインすると「System Configuration」画面が表示されます。
この画面で本製品のシステム関連の設定確認・変更が行えます。

The screenshot shows the web management interface for the GS908S-TP V2 switch. The browser address bar shows the URL <http://192.168.1.1>. The page title is "GS908S-TP V2 - 8 Port Gigabit Smart Switch". The interface is divided into a left sidebar and a main content area.

Configuration

- System
- Ports
- VLANs
- Mirroring
- Storm Protection
- Loop Guard

Maintenance

- Warm Restart
- Factory Default
- Software Upload
- Configuration File
- Logout

System Configuration

MAC Address	00-0044-27-45-3e
SW Version	GS908S-TP V2 0.0.17
System Name	GS908S-TPV2
User Name	manager
Password	*****
Password (confirmation)	*****
Console Timeout (sec)	300

IP Address	192.168.1.1
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	0.0.0.0
ICMP Reply Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>
WEB Configuration Switch Enabled	<input checked="" type="checkbox"/> Switch status: ON

BPDU Pass Through Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>
EAP Pass Through Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>

Force MDI Enabled	<input type="checkbox"/>
Flooding Mode Switch Enabled	<input checked="" type="checkbox"/> Switch status: OFF
ECO Link Relay Enabled	<input type="checkbox"/>
EEE Mode Enabled	<input type="checkbox"/>
LED Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>

Buttons:

4.2 システムの設定

パラメーター

MAC Address	本製品のMACアドレスです (表示のみ)。
S/W Version	本製品のファームウェアバージョンです (表示のみ)。
System Name	本製品のシステム名です。 初期システム名は「GS908S-TPV2」です。
User Name	新しく設定するユーザー名です。 初期ユーザー名は「manager」です。
Password	新しく設定するパスワードを入力します。 初期パスワードは「friend」です。
Password (confirmation)	新しく設定したパスワードを再入力します。
Console Timeout (sec)	WEB GUI のタイムアウト時間です。 デフォルトは「300」です。
IP Address	設定されているIPアドレスです。 デフォルトは「192.168.1.1」です。
Subnet Mask	設定されているネットワークのサブネットマスクです。 デフォルトは「255.255.255.0」です。
Gateway	設定されているネットワークのゲートウェイアドレスです。 デフォルトは「0.0.0.0」です。
ICMP Reply Enabled	本体宛ICMP通信への応答の設定状態です。 デフォルトは「Enable」 (チェックが入っている状態) です。
WEB Configuration Switch Enabled	WEB GUI 切替スイッチの設定状態です。 デフォルトは「Enable」 (チェックが入っている状態) です。
BPDU Pass Through Enabled	BPDU透過機能の設定状態です。 デフォルトは「Enable」 (チェックが入っている状態) です。
EAP Pass Through Enabled	EAP 透過機能の設定状態です。 デフォルトは「Enable」 (チェックが入っている状態) です。
Force MDI Enabled	Force MDIの設定状態です。 デフォルトは「Disable」 (チェックが入っていない状態) です。
Flooding Mode Switch Enabled	フラッディングモード切替スイッチの設定状態です。 デフォルトは「Enable」 (チェックが入っている状態) です。
ECO Link Relay Enabled	リンクリレー機能の設定状態です。 デフォルトは「Disable」 (チェックが入っていない状態) です。
EEE Mode Enabled	省電力イーサネット (Energy Efficient Ethernet) 機能の設定状態です。 デフォルトは「Disable」 (チェックが入っていない状態) です。
LED Enabled	LEDの点灯/消灯 (エコLED機能) の設定状態です。 デフォルトは「Enable」 (チェックが入っている状態) です。



注意

フラッディングモード、またはリンクリレー有効時は以下の機能が使用できません。また、フラッディングモードやリンクリレーを有効にすると、以下の機能はデフォルト設定に戻りますのでご注意ください。

- ・VLAN
- ・ミラーリング
- ・パケットストームプロテクション
- ・ループガード

スイッチ情報の確認

本製品のMACアドレスとファームウェアバージョンの確認が行えます。

MAC Address	00-00-f4-27-d5-3e
S/W Version	GS908S-TP V2 0.0.17

システム名の設定

システム名を設定します。初期システム名は「GS908S-TPV2」です。システム名は半角英数字で16文字まで入力できます。

System Name	GS908S-TPV2
-------------	-------------



ヒント

システム名は16文字以内の半角英数字で入力し、必ず設定する必要があります。大文字・小文字は区別されます。スペース、ダブルクォート「」、クエスチオン「？」は入力できません。

ユーザー名の設定

ログインユーザー名を設定します。セキュリティ確保のために初期ユーザー名を変更することをお勧めします。初期ユーザー名は「manager」です。パスワードは半角英数字で16文字まで入力できます。

User Name	manager
-----------	---------



注意

本製品は外部からの初期化を行うことができません。そのため、変更したユーザー名は忘れないようにしてください。ユーザー名を忘れると、本製品にログインできなくなります。



ヒント

ユーザー名は16文字以内の半角英数字で入力し、必ず設定する必要があります。大文字・小文字は区別されます。スペース、ダブルクォート「」、クエスチオン「？」は入力できません。

4.2 システムの設定

パスワードの設定

ログインパスワードを設定します。セキュリティ確保のために初期パスワードを変更することをお勧めします。初期パスワードは「friend」です。パスワードは半角英数字で16文字まで入力できます。

Password	●●●●●●
Password (confirmation)	●●●●●●



注意

本製品は外部からの初期化を行うことができません。そのため、変更したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードを忘れるとログインできなくなります。



ヒント

パスワードは16文字以内の半角英数字で入力し、必ず設定する必要があります。大文字・小文字は区別します。スペース、ダブルクォート「」、クエスチョン「？」は入力できません。また、入力したパスワードは「●」で表示されます。

タイムアウト時間の設定

ログインセッションのタイムアウト時間を設定します。デフォルトは300秒(5分)です。設定時間は「10秒～14400秒」の間で設定できます。「0」を設定するとタイムアウトしません。

Console Timeout (sec)	300
-----------------------	-----

IP ホストの設定

本製品はご購入時の状態で、レイヤー 2 スイッチとして機能するように設定されています。単なるスイッチとして使う場合、設置・配線後電源を入れるだけで設定は特に必要ありません。以下に、本製品の IP アドレスを変更するための基本設定について説明します。



本製品はデフォルトで IP アドレスが 192.168.1.1 に設定されています。本製品を複数台使用する場合や、すでに IP アドレス 192.168.1.1 を使用しているネットワークの場合は、本製品を使用する前に IP アドレスの設定変更が必要です。

IP Address	192.168.1.1
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	0.0.0.0

パラメーター

IP Address	IP アドレスを入力します。 半角数字で入力します。形式およびデフォルト設定は次のとおりです。 形式: XXX.XXX.XXX.XXX デフォルト: 192.168.1.1
Subnet Mask	ネットワークのサブネットマスクを入力します。 半角数字で入力します。形式およびデフォルト設定は次のとおりです。 形式: XXX.XXX.XXX.XXX デフォルト: 255.255.255.0
Default Gateway	ネットワークのゲートウェイアドレスを入力します。 半角数字で入力します。形式およびデフォルト値は次のとおりです。 形式: XXX.XXX.XXX.XXX デフォルト: 0.0.0.0

「Apply」をクリックするとすぐに反映されます。変更した IP アドレスを Web ブラウザーのアドレスバーに入力し、Web ブラウザーの「更新」をクリックすると、ログイン画面が表示されます。



本製品は外部からの初期化を行うことができません。そのため、変更した IP アドレスは忘れないようにしてください。IP アドレスを忘れると本製品にアクセスできなくなります。



本製品のデフォルトでは、全ポートが VLAN 1 に所属しており、任意のポートから Web 設定画面にログインできます。



48 ページ「バーチャル LAN の設定」

4.2 システムの設定

ICMP メッセージの設定

ICMP メッセージへの応答を許可 / 拒否を設定します。

ICMP Reply Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>
--------------------	-------------------------------------

機器の疎通確認等の目的で、接続機器から Ping コマンドにより送信されてくる ICMP (Internet Control Message Protocol) エコーメッセージへの応答を許可/拒否できます。デフォルトは ICMP メッセージへの応答を許可します。

ICMP メッセージへの応答を許可する場合はチェックボックスにチェックを入れ、拒否する場合はチェックを外します。デフォルトは許可(チェックが入っている状態)です。

BPDU 透過、EAP 透過機能の設定

BPDU 透過、EAP 透過機能の有効 / 無効を設定します。

BPDU Pass Through Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>
EAP Pass Through Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>

スパンニングツリーの経路設定のための制御情報である BPDU (Bridge Protocol Data Unit) パケットおよび EAP (Extensible Authentication Protocol) パケットを受信したときのフォワーディングについての設定を行います。

BPDU 透過、EAP 透過機能を有効にする場合はチェックボックスにチェックを入れ、無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効(チェックが入っている状態)です。

Force MDI の設定

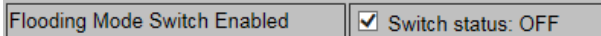
Force MDI 機能の有効 / 無効を設定します。

Force MDI Enabled	<input type="checkbox"/>
-------------------	--------------------------

Force MDI 機能は、有効に設定すると 1 ~ 7 番ポートが MDI-X、8 番ポートが MDI に固定されます。無効に設定すると「Port Configuration」設定画面でポートごとに MDI / MDI-X 自動認識、MDI / MDI-X の固定設定が行えます。無効時のデフォルト設定は MDI / MDI-X 自動認識 (Auto) です。デフォルトは無効(チェックが入っていない状態)です。

フラッディングモード切替スイッチの設定

フラッディングモード切替スイッチの使用可能/使用不可を設定します。



フラッディングモード切替スイッチを使用可能にする場合は、チェックボックスにチェックを入れ、使用不可にする場合はチェックを外します。デフォルトは使用可能（チェックが入っている状態）です。



フラッディングモード有効時は以下の機能が使用できません。また、フラッディングモードを有効にすると、以下の機能はデフォルト設定に戻りますのでご注意ください。

- ・VLAN
- ・ミラーリング
- ・パケットストームプロテクション
- ・ループガード



本設定を「使用不可」にした場合、フラッディングモード切替スイッチのNORMAL/FLOODINGにかかわらず、フラッディングモードは無効になります。

リンクリレーの設定

リンクリレー機能の有効/無効を設定します。



リンクリレー機能は、アップリンクポート（ポート8）あるいはすべてのダウンリンクポート（ポート1～7）のいずれか一方のリンクが切断された場合、もう一方のリンクを強制的に切断して、待機電力を低減する機能です。デフォルトは無効（チェックが入っていない状態）です。



リンクリレー有効時は以下の機能が使用できません。また、リンクリレーを有効にすると、以下の機能はデフォルト設定に戻りますのでご注意ください。

- ・VLAN
- ・ミラーリング
- ・パケットストームプロテクション
- ・ループガード



ポートに機器が接続されているにもかかわらず正常にリンクしない場合、リンクリレー機能が動作している場合があります。

4.2 システムの設定

EEE モードの設定

EEEモード機能の有効/無効を設定します。

EEE Mode Enabled	<input type="checkbox"/>
------------------	--------------------------

ポートの非通信時の状態を制御し、消費電力を抑える省電力イーサネット (Energy Efficient Ethernet) を設定します。

EEEモード機能を有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れ、無効にする場合は、チェックを外します。デフォルトは無効(チェックが入っていない状態)です。



ヒント

- ・100BASE-TX/1000BASE-T ポートのみ有効。
- ・接続先機器も本機能をサポートしている場合のみ有効。

エコ LED 機能の設定

ポートのLEDを消灯させるエコLED機能の有効/無効を設定します。

エコLED機能を有効(LEDが消灯)にする場合は、チェックボックスのチェックをはずします。無効(LEDが点灯)にする場合は、チェックを入れます。デフォルトは無効(チェックが入っている状態)です。

LED Enabled	<input checked="" type="checkbox"/>
-------------	-------------------------------------

WEB GUI 切替スイッチの設定

WEB GUI 切替スイッチの有効/無効を設定します。本機能を有効にすることで、本製品上面のWEB GUI 切替スイッチで、本製品へのIPアクセスの許可/拒否の設定が行えます。

WEB Configuration Switch Enabled	<input checked="" type="checkbox"/> Switch status: ON
----------------------------------	---

WEB GUI 切替スイッチを有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れ、無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効(チェックが入っている状態)です。



注意

WEB GUI 切替スイッチを無効にすると、デフォルトではすべてのコンピューターから、Web 設定画面へアクセス可能です。WEB GUI 切替スイッチを無効にする場合は、VLANを設定し適切に管理することをお勧めします。



ヒント

本設定を「無効」にした場合、本製品上面のWEB GUI 切替スイッチのON/OFFにかかわらず、Web 設定画面へアクセスできます。

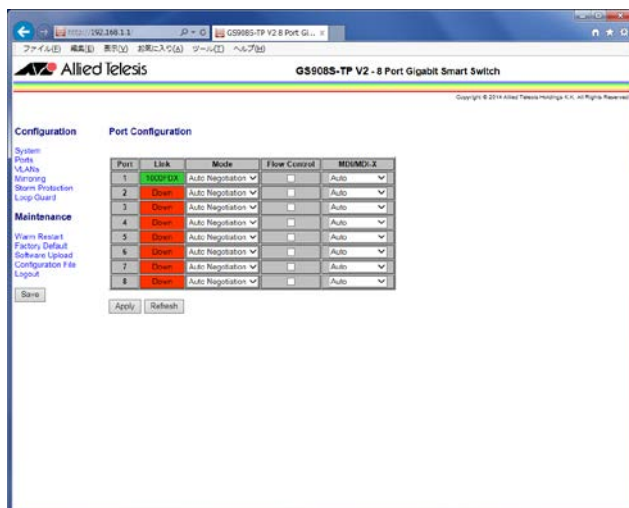
4.3 ポートの設定

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートを8ポート装備しています。

本製品のスイッチポートはご購入時の状態ですべて有効 (Enabled) に設定されており、互いに通信が可能な状態にあります。

ポート設定メニュー

「Port Configuration」画面では、ポートの設定と現在のポート状態の確認ができます。



4.3 ポートの設定

ポートの設定

ポートの設定の変更や、通信状態の確認を行えます。

Port	Link	Mode	Flow Control	MDI/MDI-X
1	1000FDX	Auto Negotiation ▼	<input type="checkbox"/>	Auto ▼
2	Down	Auto Negotiation ▼	<input type="checkbox"/>	Auto ▼

各パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

Port	ポート番号です。
Link	ポートのリンク状態です。
Mode	ポートの通信速度とデュプレックスモードです。 Auto Negotiation 10M/Half 10M/Full 100M/Half 100M/Full 1000M/Full Disabled マネージメントポートはDisabledを選択できません。
Flow Control	フロー制御の設定を行います。 チェックボックスで有効/無効を切り替えます。 有効(デフォルト):チェックを入れる。 無効:チェックを外す。 10M/Fullまたは100M/Fullで固定設定した場合、チェックボックスのチェックは自動的に外れ、「無効」で固定設定されます。
MDI/MDI-X	ポートのMDI/MDI-Xを選択します。 Auto Force MDI Force MDI-X Force MDI 機能 (Force MDI Enabled)が無効(チェックが入っていない)のときのみ設定できます。 通信速度を10Mbpsまたは100Mbpsで固定設定した場合、「Auto」は選択できません。



フローコントロールとパケットストームプロテクションを併用した場合、フローコントロールはパケットストームプロテクションで設定したフレームに対して動作しません。

手順

例として次の設定手順を説明します。

ポート 1～5までを有効にし、ポート 6～8までを無効にします。
通信モードを 1000Mbps/Full に固定設定する。
MDI/MDI-X を MDI に固定設定する。
フローコントロールを有効にする。

- 1 Web 設定画面にログインし、コンテンツフレームから「Ports」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Port Configuration」画面が表示されます。
- 3 ポート 1～5までのパラメーターをポートごとに設定します。
「Mode」のプルダウンメニューより「1000 Full」を選択します。
「Flow Control」のチェックボックスにチェックを入れます。
「MDI/MDI-X」のプルダウンメニューより「Force MDI」を選択します。
- 4 ポート 6～8までのパラメーターをポートごとに設定します。
「Mode」のプルダウンメニューより「Disabled」を選択します。
- 5 「Apply」をクリックします。
設定が反映され、「Link」に回線状態が表示されます。



・通信速度を 10Mbps または 100Mbps 固定に設定した場合、MDI/MDI-X の「Auto」は選択できません。

・「System Configuration」画面の「Force MDI Enabled」が有効(チェックが入っている状態)の場合、MDI/MDI-X の設定を行うことはできません。

ポートの通信状態の確認

「Port Configuration」の「Link」でポートの通信状態の確認が行えます。

パラメーター

表示	回線状態	背景色
Down	リンクダウン	赤
10HDX	10Mbps/Half Duplex で接続中	緑
10FDX	10Mbps/Full Duplex で接続中	緑
100HDX	100Mbps/Half Duplex で接続中	緑
100FDX	100Mbps/Full Duplex で接続中	緑
1000FDX	1000Mbps/Full Duplex で接続中	緑

4.4 バーチャル LAN の設定

スイッチの設定により、論理的にブロードキャストドメインを分割するバーチャル LAN (VLAN) 機能について説明します。

VLAN を利用することにより、機器内部に仮想的なグループを作成し、パケットの転送範囲を制限することが可能です。

レイヤー 2 スイッチは、宛先の MAC アドレスとフォワーディングデータベースを用いて不要なトラフィックをフィルタリングする機能は持ちますが、未学習の宛先 MAC アドレスを持つユニキャストパケットと、マルチキャスト/ブロードキャストパケットは全ポートに出力します。VLAN を作成して頻繁に通信を行うホスト同士をグループ化することにより、不要なトラフィックの影響を受ける範囲を限定し、帯域をより有効に活用できるようにになります。



注意

- ・本製品は Web ブラウザーによる設定のため、設定用コンピューターが接続しているポートが所属する VLAN を変更すると、それ以降、本製品と設定用コンピューターの通信ができなくなります。その場合、設定用コンピューターを変更した VID に所属しているポートに接続し直す必要があります
- ・Ingress filter は常に有効です。

ポート VLAN/ タグ VLAN の設定

「VLAN Configuration」メニューでは、VLANの作成、変更、または削除を行えます。本製品では32個のVLANを作成でき、ご購入時には全ポートがデフォルトVLAN(VID=1)に所属しており、Web設定画面へのアクセスや相互に通信可能な状態になっています。



パラメーター

VLAN mode	Port base/802.1Q VLANまたはSelectable port multiple VLANを選択します。
Current management port	設定用コンピューターと通信を行うマネージメントポートの番号が表示されます。
VID	VLANのIDを入力します。 2-4094までの半角数字で入力します。 <ul style="list-style-type: none">・重複した番号は使用できません。・VIDが指定されていないポートは自動的にデフォルトVLAN 1に所属します。・デフォルトVLAN (VID=1) は削除できません。
Port Settings	作成するVLANに所属するポートを選択します。 Untaggedは複数のVLANに登録できません。 Don't change 設定変更を行わないポート Not member VLANに所属していないポート Untagged タグを使用しないポートとして所属 Tagged タグを使用するポートとして所属

4.4 バーチャル LAN の設定

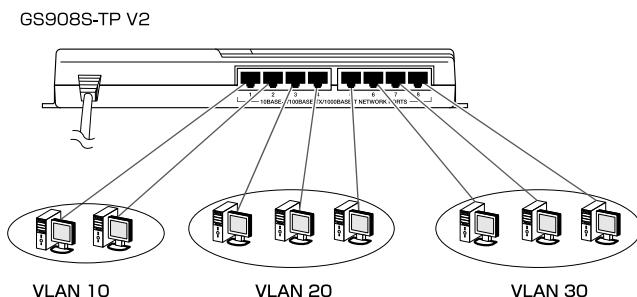
VLAN名とVIDについて

本製品は、VLAN名=VIDで設定を行います。例えば、VLAN 10の場合VIDは10です。ご購入時の状態では、全ポートがデフォルト VLAN 1 (VID = 1) に所属しており、相互に通信可能な状態になっています。

ポートVLANの作成

ポートVLANはポート単位でVLANの範囲を設定する基本的なVLANです。作成したVLANにタグなしポートとして割り付けることで構築できます。ポートは1つのVLANにだけ所属できます。

ここでは次のようなネットワーク構成例と手順を説明します。



VLAN 10、20、30を作成します。

VLAN 10にはポート1～2をタグを使用しないポートとして割り当てます。

VLAN 20にはポート3～5をタグを使用しないポートとして割り当てます。

VLAN 30にはポート6～8をタグを使用しないポートとして割り当てます。

この構成では、物理的には1台のスイッチでありながら、ネットワークとしては3台のスイッチに分割されたような状態となります。この状態ではVLAN 10、20、30は互いに通信できません。



ポートは、タグなしポートとして1つのVLANにだけ所属できます。

ヒント

手順

- 1 コンテンツフレームから「VLANs」をクリックします。
- 2 メインフレームに「VLAN Configuration」画面が表示されます。
- 3 VLAN 10を作成し、ポートを追加します。
「VID」テキストボックスに「10」を入力し、ポート 1～2は「Untagged」を選択します。
- 4 「Add」をクリックします。設定が直ちに反映し保存されます。VLAN 10が「VLAN Configuration List」に登録されます。
- 5 同様に VLAN 20（ポート 3～5）、VLAN 30（ポート 6～8）を作成し、ポートの設定を行います。



設定用コンピューターに接続しているポートを管理ポート（Mng）として VLAN10,20,30 のいずれかに所属させる必要があります。管理ポート（Mng）を VLAN に所属させるには、VLAN 作成時に「Untagged」を選択してください。

VLAN Configuration List

VID	Port								Mng
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1									
10	U	U							
20			U	U	U				
30						U	U	U	U

4.4 バーチャル LAN の設定

タグVLANの作成

タグVLANを使用すると、1つのポートを複数のVLANに所属させることができます。これは、イーサネットフレームにVLAN IDの情報を挿入し、各フレームが所属するVLANを識別できるようにすることによって実現されます(802.1Q VLANタグging)。

タグVLANは、VLAN分割の際に機器を意識することがないので、複数のVLANを複数のスイッチにまたがって作成したい場合や、802.1Q対応サーバーを複数のVLANから共用したい場合などに利用できます。



注意

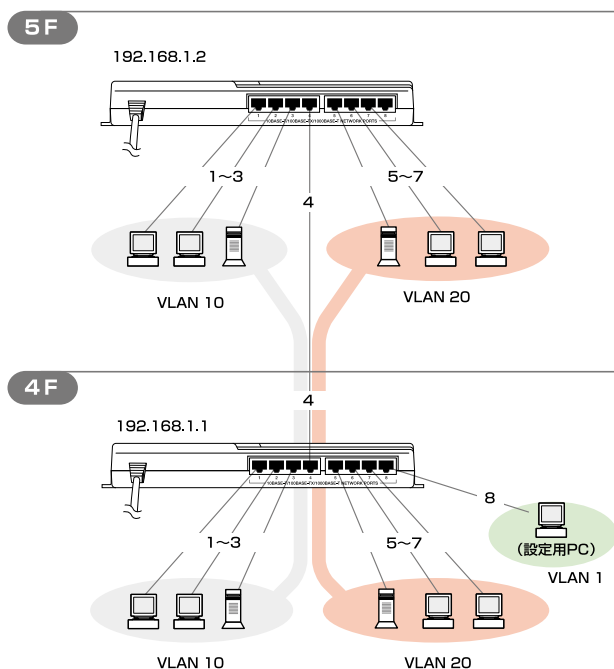
- ・タグ付きのポートに接続するサーバーやルーターはタグVLAN (IEEE 802.1Q) に対応している必要があります。
- ・マルチプルVLANはタグ付きフレームをサポートしていません。
- ・マネージメントポート (Mng) は「Untagged」のみ設定可能です。

VLANタグを利用したスイッチ間接続

VLANタグを利用して、2台のスイッチにまたがるVLANを作成します。ポート4をタグ付きに設定し、VLAN 10、20両方のトラフィックがスイッチ間で流れるように設定します。

ここでは次のようなネットワーク構成を例に説明します。

IPアドレスが重複しますので、機器を接続する前にIPアドレスを変更してください。



VLAN 10とVLAN 20を作成し、VLAN 10には、ポート1～3をタグを使わないポートとして設定し、ポート4をタグを使用するポートとして設定します。VLAN 20には、ポート5～7をタグを使わないポートとして設定し、ポート4をタグを使用するポートとして設定します。

この設定をスイッチAとBに行います。

手順

- 1 コンテンツフレームから「VLANs」をクリックします。
- 2 メインフレームに「VLAN Configuration」画面が表示されます。
- 3 VLANモードが「Port base / 802.1Q VLAN」に設定されているか確認します。「Selectable port multiple VLAN」が設定されている場合、「Port base/802.1Q VLAN」にモードを変更します。
- 4 VLANモードのドロップダウンリストから「Port base/802.1Q VLAN」を選択します。「Change mode」をクリックします。
- 5 VLAN10を作成し、ポートを追加します。
「VID」テキストボックスに「10」を入力します。ポート1～3は「Untagged」を選択し、ポート4は「Tagged」を選択します。
- 6 「Add」をクリックします。設定が反映され、VLAN 10が「VLAN Configuration List」に登録されます。
- 7 VLAN20を作成し、ポートを追加します。
「VID」テキストボックスに「20」を入力します。ポート5～7は「Untagged」を選択し、ポート4は「Tagged」を選択します。
- 8 「Add」をクリックします。設定が反映され、VLAN 20が「VLAN Configuration List」に登録されます。

VLAN Configuration List

VID	Port								Mng
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1				U				U	U
10	U	U	U	T					
20				T	U	U	U		

- 9 手順1から8をもう一方のスイッチにも行います。

4.4 バーチャル LAN の設定



- ・この設定では、ポート 4 は VLAN 1 にも（タグなしポートとして）所属したままになっています。他にも VLAN 1 所属のポートがあってトラフィックが流れている場合、ポート 4 にも VLAN 1 のブロードキャストパケットが送出されます。これが望ましくない場合は、ポート 4 を VLAN 1 から削除（Not member に設定）します。
- ・本製品の IP アドレスを変更していない場合、IP アドレスが重複しますので、機器を接続する前に IP アドレスを変更してください。



41 ページの「IP ホストの設定」

VLAN の変更

VLAN に所属するポートおよびポートのタグ付き / タグなしの設定を変更します。

手順

- 1 「VID」テキストボックスに、変更する VID を入力します。
- 2 変更するポートの所属を「Not member」、「Untagged」、「Tagged」より選択します。
- 3 「Modify」をクリックします。

VLAN の削除

作成した VLAN を削除します。

手順

- 1 「VID」テキストボックスに削除する VID を入力します。
- 2 「Delete」をクリックします。VLAN 1 は削除できません。



VLAN を削除したとき、いずれの VLAN にも所属しなくなったポートは VLAN 1 に変更されます。

セレクトアブルポート・マルチプル VLAN の設定

マルチプルVLANを使用するとインターネットマンションや学校などのセキュリティーを必要とするネットワークを簡単に構築することができます。

本製品はVLANモードを802.1QVLANからマルチプルVLANモードに切り替えることによって、自動的にマルチプルVLAN専用のVLANを構築します。

マルチプルVLANモードを選択すると自動的にUV、CV、NVという3つの属性に分類されるVLANが作成されます。VLANの設定は固定で、新規VLANの作成やVLAN名の変更はできませんが、ポートをUV、CV、NVのいずれかのVLANに任意に割り当てることができます。UV、CV、NVの各属性とVLANの定義は下表のとおりです。

—	UV アップリンクVLAN	CV クライアントVLAN	NV ノーマルVLAN
属性	ルーター（インターネット）やサーバーなどの共有機器の接続を行うためのVLAN	各部屋や教室など互いの通信を制限するコンピューターの接続を行うためのVLAN	通常のスイッチとして使用するためのマルチプルVLANから独立したVLAN
VLAN数 (固定)	2個	8×2個	10個
VLAN名 (固定)	UV-A UV-B	CV-A 1～8 CV-B 1～8	NV1～10
VLAN ID (固定)	UV-A: 100 UV-B: 200	CV-A 1～8: 101～108 CV-B 1～8: 201～208	1～10
所属ポート	1個のVLANに対して複数ポートの割り当てが可能		

下図はGS908S-TP V2でマルチプルVLANモードを選択した場合のVLAN構成です。NV-1には初期状態でポートが割り当てられていますが、これらは変更が可能です。

VLAN名	所属ポート(デフォルト)
NV-1	1～8

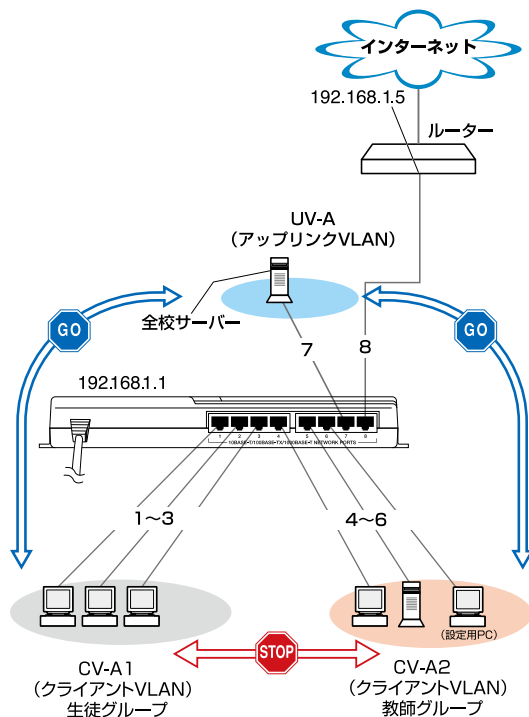
マルチプルVLANの仕様

- ・異なるクライアントVLANに属するポート間では通信ができません。
- ・クライアントポートとアップリンクポート（UVに属するポート）間では通信が可能です。
CV-Aと可能なアップリンクポートはUV-Aです。
CV-Bと可能なアップリンクポートはUV-Bです。
- ・アップリンクポートとクライアントポートのグループ（マルチプルVLAN）とノーマルVLAN（NV）間では通信ができません。
- ・ポートミラーリング機能との併用は可能です。
- ・802.1Qタグ付きパケットのタグは認識せず、そのままスイッチングされます。

4.4 バーチャル LAN の設定

マルチプルVLANを使用したネットワーク構成例を示します。

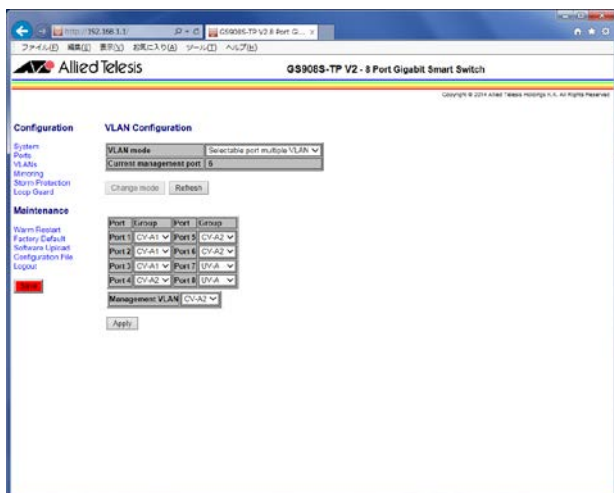
下図の例では、ポート1～3はCV-A1、ポート4～6はCV-A2、ポート7, 8はUV-Aに、それぞれ属しています。CV-A1とCV-A2はクライアント用のグループで、互いに通信することはできません。一方、UV-Aはアップリンク用のグループで、ポート7に接続された全校サーバーと、ポート8に接続されたルーターにはCV-A1とCV-A2の両方のグループからアクセスすることができます。



「マルチプルVLANを使用した設定」構成例

手順

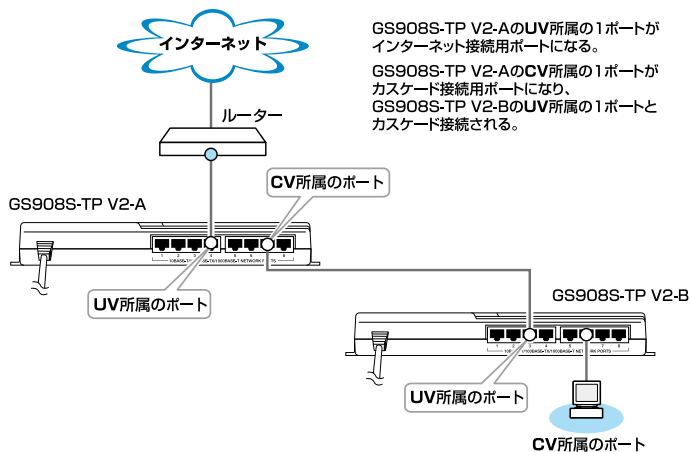
- 1 コンテンツフレームから「VLANs」をクリックします。
- 2 メインフレームに「VLAN Configuration」画面が表示されます。
- 3 「Port base/802.1Q VLAN」から「Selectable port multiple VLAN」にモードを変更します。
VLANモードのドロップダウンリストから「Selectable port multiple VLAN」を選択します。「Change mode」をクリックします。
- 4 UV-A、CV-A1、CV-A2の各VLANにポートを割り当てます。
- 5 「Group」のドロップダウンリストから各VLANを選択します。ポート1～3は「CV-A1」、ポート4～6は「CV-A2」、ポート7と8は「UV-A」を選択します。
- 6 Management VLANを設定します。
「Group」のドロップダウンリストから「CV-A2」を選択します。
※ポート4～6以外のポートでWEB GUI にアクセスしている場合、UTPケーブルをポート4～6のいずれかに接続しなおし、「Refresh」をクリックしてください。
- 7 「Apply」をクリックします。



4.4 バーチャル LAN の設定



- ・マルチプル VLAN 設定ポート同士でカスケード接続する場合は、UV 所属のポートと CV 所属のポートを接続するようにします。
- ・UV 所属のポート同士を接続しないでください。本製品配下のコンピューター同士の通信が可能になりセキュリティが保たれません。



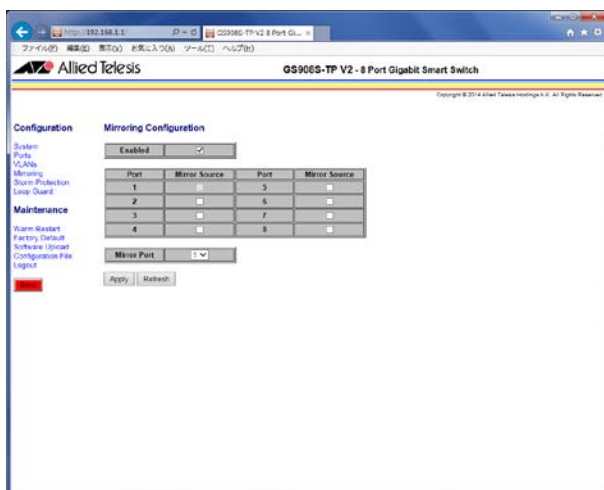
4.5 ポートミラーリングの設定

ポートミラーリング

ポートミラーリングは、特定のポートを通過するトラフィックをあらかじめ指定したミラーポートにコピーする機能です。パケットを必要なポートだけに出力するスイッチではパケットキャプチャーなど困難ですが、ポートミラーリングを利用すれば、任意のポートのトラフィックをミラーポートでキャプチャーできます

ポートミラーリングの仕様

- ・コピー可能なトラフィックは受信パケット (Rx) のみです。
- ・VLAN でタグ付きポートに設定したポートは、ミラーポートに設定できません。
- ・ミラーポートに設定されたポートは通常のスイッチポートとしては機能しません。
- ・マネージメントポートはミラーポートに設定できません。
- ・すでに別のポートがミラーポートとして設定されていた場合、先に設定されていたポートはミラーポートでなくなり、VLAN 1 所属のタグなしポートとなります。ミラーポートになったポートは、どのVLANにも所属しません。
- ・ポートミラーリングとループガードを同時に機能させることはできません。



4.5 ポートミラーリングの設定

パラメーター

表示	回線状態	背景色
Enabled	ポートミラーリングの設定をします。 チェックボックスで有効/無効を切り替えます。 有効: チェックを入れる。 無効(デフォルト): チェックを外す。	
Port	ポート番号です。	
Mirror Source	ソースポートに設定したいポートにチェックを入れます。 ソースポートは複数のポートを選択できます。	
Mirror Port	ミラーポートに設定したいポートを選択します。 ミラーポートは1ポートのみ選択できます。	

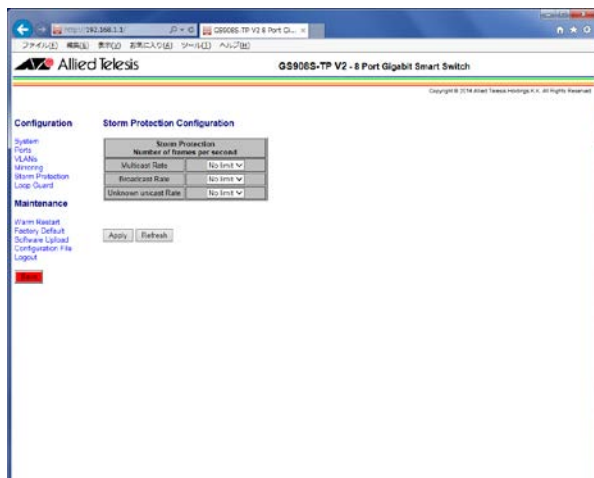
手順

- 1 コンテンツフレームから「Mirroring」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Mirroring Configuration」画面が表示されます。
- 3 ポートミラーリング機能を有効にするには、「Enabled」チェックボックスにチェックを入れます。ポートミラーリング機能を無効にするには、「Enable」チェックボックスのチェックを外します。
- 4 「Mirror Source」チェックボックスから、ソースポートに設定したいポートにチェックを入れます。
- 5 「Mirror Port」ドロップダウンリストから、ミラーポートを1ポート選択します。
- 6 「Apply」をクリックします。

4.6 パケットストームプロテクションの設定

パケットストームプロテクション

パケットストームプロテクションは、ブロードキャスト/マルチキャスト/未学習のユニキャストの受信レートに上限を設定し、パケットストーム(突発的な大量パケットの受信)を防止するための機能です。設定値を上回るレートでこれらのフレームを受信した場合、フレームは破棄されます。



各パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

Multicast Rate	マルチキャストフレームの上限値を設定します。
Broadcast Rate	ブロードキャストフレームの上限値を設定します。
Unknown unicast Rate	未学習のユニキャストフレームの上限値を設定します。

手順

- 1 コンテンツフレームから「Storm Protection」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Storm Protection Configuration」画面が表示されます。
- 3 フレームの最大透過レートを設定します。
ドロップダウンリストから数値を選択してください。「No limit」はパケットの制限を行いません。
- 4 「Apply」をクリックします。

4.7 ループガードの設定

ループガード

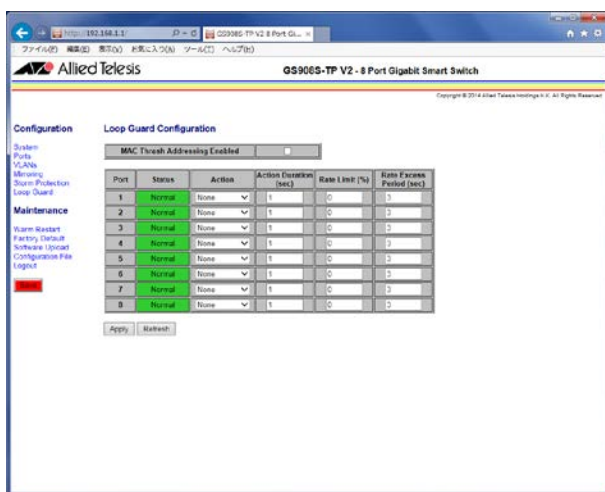
本製品は、受信レート検出とMACアドレススラッシングプロテクションの2種類のループガード機能をサポートしています。

受信レート検出

受信レート検出は、ポートで受信するトラフィックレートがあらかじめ設定しておいたしきい値を超えた場合にループ状態と判断し、指定したアクション(ポートの無効化など)を自動的に実行する機能です。

MACアドレススラッシングプロテクション(MAC Thrash Addressing)

MACアドレススラッシングプロテクションは、一度学習したMACアドレスを別ポートで検出するとSwitch Chipのステータスの参照を行い、ステータスが2回連続で変化した場合にループと判断し、指定したアクション(ポートの無効化など)を自動的に実行する機能です。



各パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

MAC Thrash Addressing Enabled	MACアドレススラッシングプロテクションの有効/無効を設定します。 有効：チェックを入れる。 無効(デフォルト)：チェックを外す。
Port	ポート番号です。
Status	各ポートの状態を表示します。 ・ Normal (緑) 通常動作 ・ Port Disable (赤) ポート無効 ・ Link Down (赤) リンクダウン

Action	ループを検出した場合の、アクションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ None 何もしない ・ Port Disable リンクを維持したまま通信を停止する ・ Link Down リンクを切断する
Action Duration	アクションの継続時間を1秒～86400秒の間で設定します。 デフォルトは1です。
Rate Limit	受信レートの上限値を0%～99%の間で設定します。 設定推奨値は「95%」です。 デフォルトは0(ループガード無効)です。
Rate Excess Period	受信レートが上限値を超えた場合、ループと判断するまでの時間を1秒～10秒の間で指定します。デフォルトは3です。



ヒント

・「Rate Limit」を0%に設定すると、受信レート検出機能は無効となり「Action」で設定した動作は行われません。設定推奨値は95%です(受信レートはご利用環境により変化するため、実環境で様子をみながら適切に設定していただくことをお勧めします)。

・「Rate Limit」の値は、実際のリンクスピードに対する比率です。



注意

・ループガードとパケットストームプロテクションを併用した場合、ループの検出はパケットストームプロテクションで破棄される前の受信レートで判定を行います。

・ループガードとポートミラーリングを同時に機能させることはできません。

・フローコントロール機能が有効(デフォルトは有効)の場合、ループ発生時にフローコントロールにより受信レートがRate Limitを超えず設定したActionが実行されないことがあります。

・受信レート検出では、本製品内でのループ(例:本製品のPort1とPort2を1本のケーブルで接続する)では、十分に効果を発揮しないことがあります。特に、リンクスピードの異なるポートが存在する場合は検出の精度が著しく落ちることがあります。

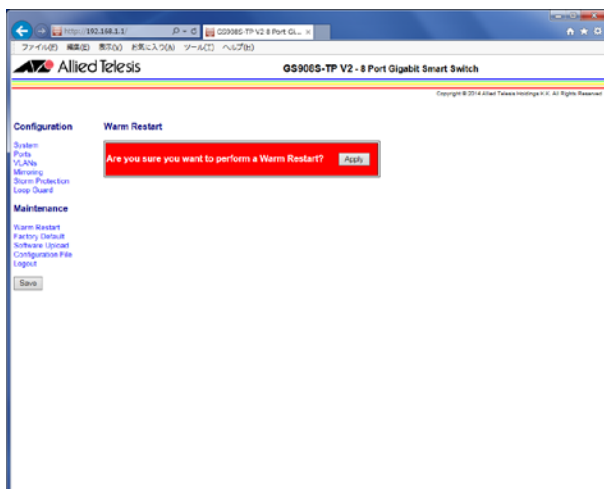
・受信レート検出は、検出の仕組み上、ループしていなくても設定した上限値を超えるレートがあった場合にはループと検出します。また、Jumbo Frameには対応していません。

手順

- 1 コンテンツフレームから「Loop Guard」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Loop Guard Configuration」画面が表示されます。
- 3 MACアドレススラッシングプロテクション機能を使用する場合は、「MAC Thrash Addressing Enabled」チェックボックスにチェックをします。
- 4 「Action」ドロップダウンリストからループが発生した場合のアクションを選択します。
- 5 「Action Duration」にActionの継続時間(秒)を入力します。
- 6 「Rate Limit」に受信レートの上限值(%)を入力します。
- 7 「Rate Excess Period」に受信レートが上限値を超えた場合にループと判断するまでの時間(秒)を入力します。
- 8 「Apply」をクリックします。

4.8 再起動する

「Warm Restart」メニューにより、本製品を再起動できます。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Warm Restart」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Are you sure you want to perform a Warm Restart?」が表示されます。
- 3 「Apply」をクリックします。

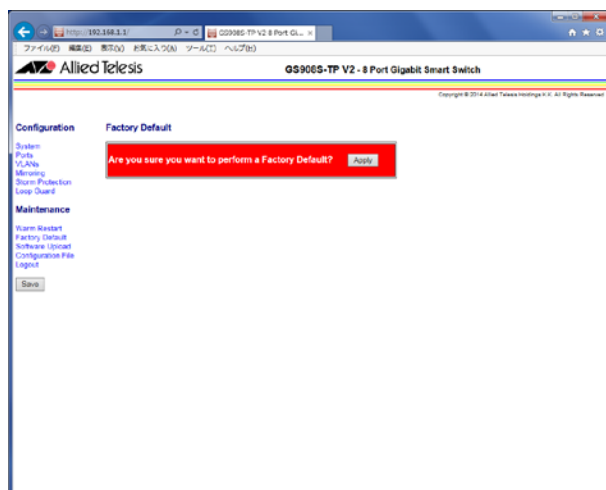
メインフレームに「System Reboot will take a couple of seconds...」、 「Select another page.」と表示されます。



再起動のプロセスが完了するまで約 10 秒間かかります。10 秒後に他のページをクリックしてください。再起動のプロセスが完了するとログイン画面が表示されます。

4.9 工場出荷時の設定に戻す

本製品を工場出荷時状態に戻すには、コンテンツフレームから「Factory Default」をクリックします。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Factory Default」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Are you sure you want to perform a Factory Default?」が表示されます。
- 3 「Apply」をクリックします。

初期化が完了すると「System Config Update Complete...」、「Select another page...」とメインフレームに表示されます。



「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイアドレス」は初期化されません。



80 ページ「デフォルト設定」

4.10 ファームウェアのアップデート

弊社は、改良（機能拡張、不具合修正など）のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手してください。

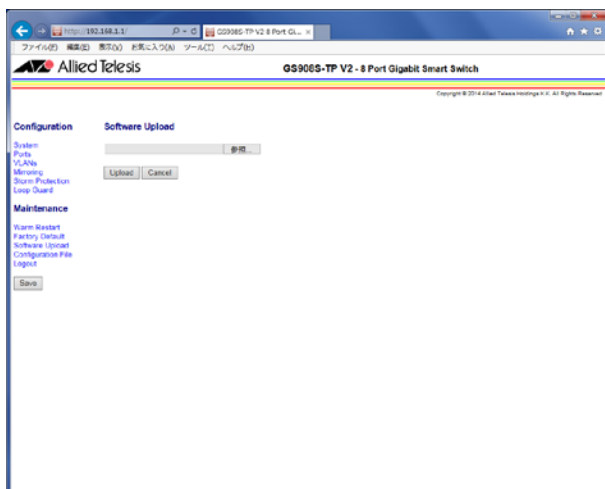
なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-teselis.co.jp/>

本書では、アップロードを次のように定義します。

アップロード：設定用コンピューターから本製品へのデータの転送

本製品にインストールされているファームウェアのバージョンは、「System Configuration」画面で確認できます。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Software Upload」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Software Upload」画面が表示されます。
- 3 「参照...」をクリックすると「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。
- 4 設定用コンピューターに保存されているファームウェアを指定し、「開く」をクリックします。テキストボックスにパスが表示されます。

5 「Upload」をクリックします。

ファームウェアのアップロードが始まります。

アップロードが完了すると、「Software successfully loaded」がメインフレームに表示されます。ファームウェアをインストールする場合は「Yes」をクリックします。ファームウェアをインストールしない場合は「No」をクリックします。

ファームウェアのインストールが完了すると本製品が再起動します。続けて設定を行う場合は、再度、本製品へログインしてください。



注意

- ・アップロード中は、電源を切らないでください。
- ・ファームウェアのアップロード後に「Yes」をクリックせず、他のページへ移動したり、本製品を再起動した場合、アップロードしたファームウェアはインストールされません。
- ・ファームウェアのアップデート時にログインセッションからタイムアウトすると、再度ログインしてファームウェアのアップデートが必要となります。ログインセッションのタイムアウト時間を多めに設定することをお勧めします。デフォルトは300秒(5分)です。

4.11 設定ファイルのアップロード・ダウンロード

本製品は、Web 設定画面で設定した内容をバイナリー形式またはテキスト形式で保存できます。さまざまな設定を異なる名前のファイルとして保存しておき、必要に応じて切り替えて使用することができます。

本書では、アップロードおよびダウンロードを次のように定義します。

ダウンロード：本製品から設定用コンピューターへのデータの転送

アップロード：設定用コンピューターから本製品へのデータの転送

メニューの概要

「Binary Configuration Upload」	バイナリー設定ファイルをアップロードする
「Text Configuration Upload」	テキスト設定ファイルをアップロードする
「Binary Configuration Download」	バイナリー設定ファイルをダウンロードする
「Text Configuration Download」	テキスト設定ファイルをダウンロードする

ファイルタイプ

拡張子	ファイルタイプ
cfg	バイナリー設定ファイル システムの設定、VLANの設定、ポートの設定などの全ての情報を保持します。 ただし、テキスト設定ファイルの設定情報は除きます。
txt	テキスト設定ファイル システム名、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定情報を保持します

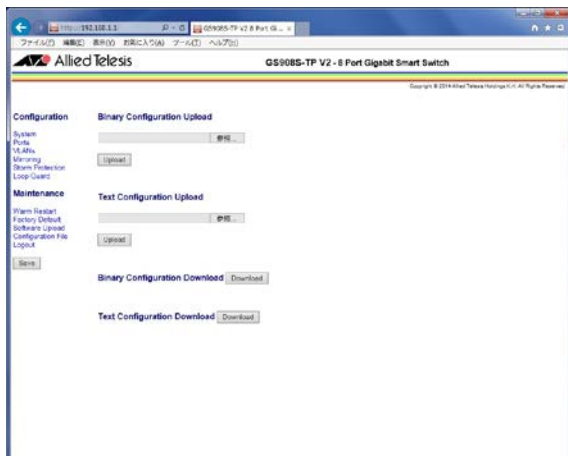


設定情報をバックアップする場合、「バイナリー設定ファイル」と「テキスト設定ファイル」をダウンロードしてください。

設定ファイルのアップロード

「Configuration File」メニューより、保存した本製品のバイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルを読み込むことができます。

バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのアップロードの手順は、次のとおりです。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Configuration File」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Binary Configuration Upload」、「Text Configuration Upload」が表示されます。
- 3 「参照...」をクリックすると「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。
- 4 アップロードするファイルを選択し、「開く」をクリックします。
- 5 「Upload」をクリックします。

設定ファイルのアップロードが始まります。

アップロードが完了すると、「System Config Update Complete...」と表示されます。



設定ファイルのアップロードが完了すると、自動でインストールが開始されます。インストール完了後、再起動の必要はありません。

4.11 設定ファイルのアップロード・ダウンロード

設定ファイルのダウンロード

「Configuration File」メニューより、本製品で設定したバイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルを設定用コンピューターへ保存できます。

バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのダウンロードの手順は、次のとおりです。

手順

- 1 コンテンツフレームから「Configuration File」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Binary Configuration Download」、「Text Configuration Download」が表示されます。
- 3 「Download」をクリックします。
- 4 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 保存先を指定し「保存」をクリックします。
設定ファイルのダウンロードが始まります。



ダウンロード中は、電源を切らないでください。

注意

4.12 ログアウト

ログアウト

Web設定画面からログアウトするには、コンテンツフレームの「Logout」をクリックします。ログアウトに成功するとログイン画面が表示されます。



5

付 録

この章では、トラブル解決、本製品の仕様、サポート機能の主なデフォルト設定、保証とユーザーサポートについて説明しています。

5.1 困ったときに

本製品の使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

システム情報を確認する

お問い合わせの前に各ポートの設定または状態を確認してください。
設定または状態はWeb設定画面のコンテンツフレームから「Ports」をクリックして表示される「Port Configuration」画面で確認できます。



45 ページ「ポートの設定」

LED 表示を確認する

LEDの状態を確認してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。



18 ページ「LED 表示」

トラブル例

電源ケーブルを接続してもPWR LEDが点灯しない

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

PWR LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあげてください。

ケーブルを接続してもLINK/ACT LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

本製品は、通信モードの固定設定ができます。接続先の機器を確認して、Web設定画面で通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか

- UTPケーブルのカテゴリ
10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。
- UTPケーブルのタイプ
通信モードがオートネゴシエーションかつMDI/MDI-X自動認識が有効な場合、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用できます。

通信速度を10Mbps/100Mbpsに固定設定した場合、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要がありますので、その場合はケーブルタイプに注意してください。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。
- UTPケーブルの長さ
ケーブル長は最大100mと規定されています。

 23 ページ「ネットワーク機器の接続」

エコLEDに設定されていませんか

コンテンツフレームから「System」を選択し、「LED Enabled」のチェックが入っているか確認してください。チェックが入っていない場合はエコLEDが有効な状態です。

リンクリレー機能が有効になっていませんか

リンクリレー機能により回線が切断されていないかどうか確認してください。コンテンツフレームから「System」を選択し、「ECO Link Relay Enabled」のチェックが外れているか確認してください。

LINK/ACT LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効(Disabled)に設定されていませんか

コンテンツフレームから「Ports」を選択し、Linkが「Disabled」と表示されていないか確認してください。

5.1 困ったときに

本製品にアクセスできない

ユーザー名、パスワードが間違っていないか


本製品へのアクセスを制限するために、ユーザー名とパスワードが設定されています。デフォルトから変更したユーザー名、パスワードを忘れてしまうと、本製品にアクセスできません。


IPアドレスはありますか

本製品にアクセスするためには、本製品のIPアドレスと設定用コンピューターのIPアドレスが合っている必要があります。

マネージメントポートが適切なVLANに所属していますか

本製品にアクセスするためには、マネージメントポートが所属するVLANに接続ポートが所属している必要があります。

 **参照** 40 ページ「パスワードの設定」

 **参照** 25 ページ「設定の準備」

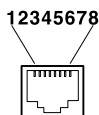
5.2 仕様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクタ・ケーブル仕様

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T インターフェース

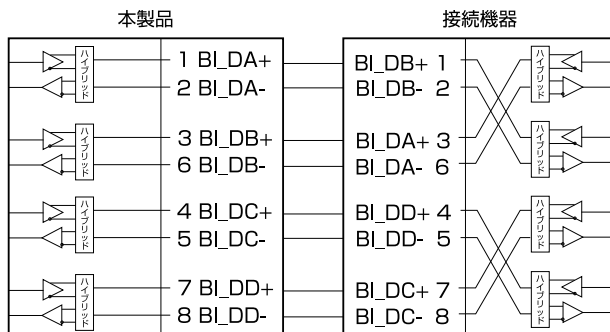
RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



コンタクト	10BASE-T 100BASE-TX		1000BASE-T	
	MDI	MDI-X	MDI	MDI-X
1	TD + (送信)	RD + (受信)	BI_DA +	BI_DB +
2	TD - (送信)	RD - (受信)	BI_DA -	BI_DB -
3	RD + (受信)	TD + (送信)	BI_DB +	BI_DA +
4	未使用	未使用	BI_DC +	BI_DD +
5	未使用	未使用	BI_DC -	BI_DD -
6	RD - (受信)	TD - (送信)	BI_DB -	BI_DA -
7	未使用	未使用	BI_DD +	BI_DC +
8	未使用	未使用	BI_DD -	BI_DC -

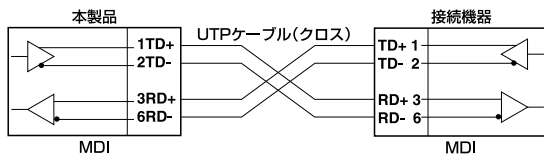
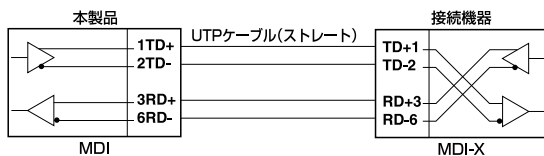
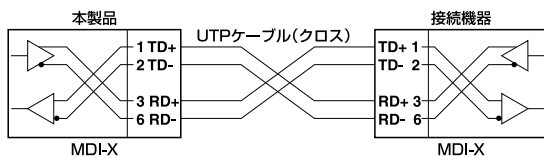
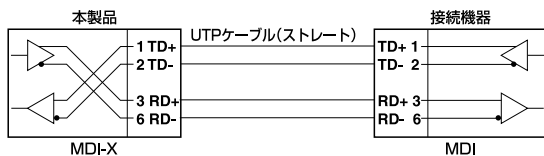
ケーブルの結線は下図のとおりです。

○ 1000BASE-T



5.2 仕様

○ 10BASE-T/100BASE-TX



本製品の仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3az Energy-Efficient Ethernet IEEE 802.3x Flow Control
適合規格	
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1
EMI規格	VCCIクラスA
EU RoHS 指令	
電源部	
定格入力電圧	AC100-120V
入力電圧範囲	AC90-132V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.2A
最大入力電流(実測値)	0.17A
平均消費電力	7.1W(最大8.0W)
平均発熱量	25kJ/h(最大29kJ/h)
環境条件	
保管時温度	-20~60℃
保管時湿度	95%以下(ただし、結露なきこと)
動作時温度	0~40℃
動作時湿度	80%以下(ただし、結露なきこと)
外形寸法	
本体	265(W) × 67(D) × 37(H) mm
ケーブル長	1.8m
質量	
	480g
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	
	8K(最大)
MACアドレス保持時間	
	300~600秒
メモリー容量	
パケットバッファ	512KByte
フラッシュメモリー	2MByte
メインメモリー	64KByte

5.3 デフォルト設定

サポート機能の主なデフォルト設定です。各機能の詳細なデフォルト設定については、4章「設定と操作」を参照してください。

設定	デフォルト
マネージメント	
ユーザー名	manager
パスワード	friend
システム名	GS908S-TPV2
タイムアウト時間	300秒
WEB GUI 切替スイッチ	有効
フラッシュモード切替スイッチ	使用可能
スイッチング	
通信モード	Auto Negotiation
フローコントロール	有効
MDI/MDI-X	Auto
ポートミラーリング	無効
ICMPメッセージ	有効
BPDU透過	有効
EAP透過	有効
パケットストームプロテクション	
Broadcast Rate	No limit
Multicast Rate	No limit
Unknown unicast Rate	No limit
ループガード	
Action	None
Action Duration	1秒
Rate Limit*	0%
Rate Excess Period	3秒
MACアドレススラッシングプロテクション	無効
バーチャルLAN (ポートVLAN / タグVLAN)	
VLAN ID	1
バーチャルLAN (セレクトアブルポート・マルチプルVLAN)	
VLAN名	NV 1
IP	
IP アドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0
エコ	
リンクリレー	無効
EEE モード	無効
エコLED	無効

* Rate Limitの設定推奨値は95%です。


5.4 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/repair/>

 0120-860332

携帯電話 / PHSからは： 045-476-6218
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/info/>

 0120-860772

携帯電話 / PHSからは： 045-476-6203
月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

5.4 保証とユーザーサポート

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をご記入いただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてもかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

2 製品について

シリアル番号とリビジョンをお知らせください。

シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている（製品に同梱されている）シリアル番号シールに記入されています。

(例)



S/N以降のひと続きの文字列がシリアル番号、スペース以降のアルファベットで始まる文字列（上記例の「A1」部分）がリビジョンです。

3 設定やLEDの点灯状態について

- スイッチ類の設定状態をお知らせください。
- LED の点灯状態をお知らせください。

4 お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。
- 可能であれば、早期解決のために、エラーメッセージやエラーコード、設定スクリプトファイルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

5 ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をあわせて送ってください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。

弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2014 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMは、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、この文章に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2014年 12月 Rev.A 初版

